

ニッチ市場向け脱しフルラインナップ端末戦略へ イー・モバイルがデータ特化型から転換

本格的にAndroidスマートフォン／タブレット端末に参入するイー・モバイル。ニッチ市場をターゲットにした製品だけでなく、ラインナップを揃えてユーザー拡大を目指す。

文◎村上麻里子(本誌)

「従来はデータ通信の会社だったが、これからは大きなマーケットに挑戦したい。データカンパニーからコンシューマーカンパニーに転換する」——イー・アクセス代表取締役社長のエリック・ガン氏は、今年5月に開催された「ワイヤレスジャパン2011」の講演で、スマートフォン事業の強化によるユーザーの拡大を目指すことを宣言した。

2007年3月に「イー・モバイル」として移動体通信事業に参入して以降、同社は「モバイルブロードバンドサービスのリーディングカンパニー」を標榜し、データ通信カードやモバイルWi-Fiルーターといった製品で新しい市場を開拓してきた。

この蓄積の上に、いよいよデータ通信特化型からウイングを広げたモ

バイルブロードバンドサービス会社に飛躍していこうとしており、その軸としての端末戦略でもひとつの転換を図ろうとしているのだ。

この間、「EM・ONE」を皮切りに、Windows Mobileを搭載したPDA／スマートフォンを年間数機種のパースで投入。昨年の「HTC Aria (S31HT)」 「Pocket WiFi S (S31HW)」からはAndroid端末も手がけており、ついに今年度はAndroidスマートフォン／タブレット端末を最低5機種以上を投入する計画だ。その第1弾として、この7月にスマートフォン「Pocket WiFi S II (S41HW)」 「S42HW」の2機種を発売した(図表1)。

基本料金だけでデザリング対応

イー・モバイルのスマートフォンの



イー・アクセス
執行役員
サービス戦略本部
サービス戦略部長
坂田大氏

サービス戦略本部
サービス戦略部
商品企画グループ
グループ長
中村力氏



特徴は、「デザリング機能」と「コンパクトさ」にある。

昨年投入したHTC AriaとPocket WiFi Sは、Android OSを搭載しながらモバイルWi-Fiルーターとして使えるデザリング機能も備えている点だが、イノベーター層である20～30代の男性を中心に人気を集めた。今回発売されたスマートフォン2機種も、最大5台までのデザリング機能に対応する。

イー・モバイルが先鞭を付けてきたデザリングへのニーズは高く、他社でも同様の機種は徐々に増えている。KDDIが今年4月に発売した「htc EVO WiMAX ISW11HT」は、最大8台のWi-Fi対応機器を接続できる。秋モデルでは、さらにデザリング対応機種が増える予定だ。ドコモは、夏モデルのスマートフォンの

図表1 イー・モバイルの契約数・純増数の推移

